

R5年度 特定非営利活動法人わくわくクラブ 虐待防止委員会ならび身体拘束適正化委員会

日時：令和5年11月9日（木） 10時20分～11時40分

出席者：虐待防止委員長 藤田和子（理事長）、虐待防止マネージャー 捧泰輔（職員）

保護者代表 唐沢友美、第三者委員 田澤弘一、同委員 阿部紀子

内容：①「支えの信条」動画視聴

②「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」の要約確認

③「厚生労働省令和5年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」動画視聴

④わくわくクラブ 虐待防止委員会ならび身体拘束適正化委員会の体制確認

参加者の主なコメント

- ・利用する方と支援者は、常に対等でなければならない。親と子、先生と子も、上下関係になりがちだが、立場の違いこそあれ本来は平等。支援に携わる人は、利用者の特性を理解して、できるだけトラブルのない形がとれるとよい。
- ・こういった研修の場は必要だと改めて感じた。顔を合わせて、開放的に話ができるのはよいこと。わくわくクラブの中で、こういった研修の内容が共有化されていくことが大事。そのためには、支援者同士の横並びのつながりの中で軽く話せる雰囲気をつくってほしい。
- ・職員同士の共通認識が大事。駅前の事業所の職員との連携もそう。子ども一人ひとりの特性が異なる中で、A職員とB職員で、うまく接することができる/できないということがあるかもしれない。そういったときに、職員間でうまくいくやり方などの共通認識をはかることが大切。
- ・自分が教員時代に、子どもの気持ちに常に寄り添うことのできる尊敬する同僚がいた。子どもの気持ちに常に寄り添い、共感するというのは並大抵なことではない。支援者だって「どうすればいいのか？」とおろおろするのが普通。
- ・支援者として、悩むこと・うまくいかないことはある。そういったときに時々自分を振り返る。自分を省みるという意識を持ち続けられるようにしたい。
- ・自分の子は、これまで問題行動が多かった（家庭ではそんなに問題はない）。先生の接し方一つで変わってしまうが、今は良い方向に向かっている。うまくいかないときに、本人なりの理由を聴いて認めてあげるとか、自分たちの感覚に当てはめないようにはしている。
- ・施設によっては人格無視、経営優先の運営がなされる可能性がある。トップに立つ人の意識がいかに大事か。その点、藤田理事長は素晴らしく、おかしなことは起きないだろうと思う。